

## 2026シラバス一覧（教職課程科目）

教職課程科目	
シラバスNo.	科目名
260050010	教育原理
260050020	教職概論
260050030	教育法概論
260050040	教育心理学
260050050	特別支援教育の基礎
260050060	教育課程論
260050070	道徳教育論
260050080	総合的な探究の時間の指導法
260050090	特別活動論
260050100	教育方法・技術論（ICT活用の理論と実践を含む）
260050110	生徒指導論
260050120	学校カウンセリング
260050130	進路指導及びキャリア教育
260050140	栄養教諭論
260050150	食生活・食文化論
260050160	食教育指導論
260050170	栄養教育実習事前事後指導
260050180	栄養教育実習
260050190	教職実践演習（栄養教諭）
260050200	倫理学
260050210	公民科指導法Ⅰ
260050220	公民科指導法Ⅱ
260050230	福祉科教育法Ⅰ
260050240	福祉科教育法Ⅱ
260050250	教育実習事前事後指導
260050260	教育実習
260050270	教職実践演習（高）
260050280	知的障害心理・生理・病理
260050290	肢体不自由心理・生理・病理
260050300	病弱心理・生理・病理
260050310	障害児教育課程論
260050320	肢体不自由者教育課程論
260050330	肢体不自由教育演習
260050340	病弱教育学
260050350	視覚障害教育総論
260050360	聴覚障害教育総論
260050370	障害児教育実習事前事後指導
260050380	障害児教育実習

科 目 名	教育原理			
科 目 名 ( 英 語 )	Principles of Education	シラバスNo.	260050010	
担 当 教 員 名	小西 二郎			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	○受講生の皆さんが「理論－実践」関係について自覚的に考えるようになり、かつそのことが教員の職務上、どれだけ必要かについて考えるようになることです			
受 講 の 留 意 点	○教育のリアルな現実をとらえることを通して、なかなか言葉にできない教育の難しさや魅力の本質について考えてみて下さい ○新聞を読み、テレビのニュースをみることをお忘れなく ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中でそれを取り上げることがあります			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1 テーマ： 「教育現場・実践と理論は相互に支え合い、鍛え合う」について考える ○教育とはどういう営みか。その歴史的背景や哲学・思想的思索について考えます ○そのことを通して、教育哲学・思想・歴史的考察の「有用性」について考えます 2 授業の形式 ○応答的な授業展開を心がけます。例えば、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭であるいはリアクション・ペーパーを用いて行います			
	アクティブ・ラーニングの内容 ○ミニレポートに対する応答 ○ディスカッション			
授 業 の 計 画	1 序 本科目の位置づけとねらい 2 第Ⅰ部 「教育原理」は必要？ 第1章 教育哲学・思想・歴史を学ぶことについて考える 3 第2章 教育をどうとらえるか 4 第Ⅱ部 西洋における学校教育の歴史と思想 第1章 学校教育の歴史や思想に踏み込むにあたって 5 第2章 西洋における学校教育の歴史（その1） 学校体系の三類型 6 第2章 西洋における学校教育の歴史（その2） 産業革命と近代学校の出発 7 第2章 西洋における学校教育の歴史（その3） 国家と近代学校 8 第2章 西洋における学校教育の歴史（その4） 新教育運動について 9 第3章 近代教育の思想（その1） J. ロックの教育思想 10 第3章 近代教育の思想（その2） ルソーの教育思想 11 第3章 近代教育の思想（その3） デューイの教育思想 12 第Ⅲ部 近代以降の日本における学校教育の歴史 第1章 近代学校制度の出発と展開 13 第2章 大正期の学校教育 14 第3章 戦時下の学校教育 第4章 戦後の学校教育 15 まとめ 教育という経験と子どもと向き合うということ			
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予習 プリントを読んでおく</li> <li>○復習 プリントとノートしたことを読み返すとともに、参考文献を読んで（せめて、いくつかの参考文献の該当部分だけでも）理解を深める。</li> </ul>
<p>成績評価方法</p>	<p>毎回書いていただくミニレポートと試験の結果をもとに評価します（ミニレポート 21 点、試験 79 点、計 100 点）。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>使用しません。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>主な参考文献は下記の通りです。講義の中で、適宜、他の文献も紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木村 元他編著(2020)『アクティベート 教育学 01 教育原理』ミネルヴァ書房。</li> <li>○山内清郎他編著(2020)『新しい教職教育講座 教職教育編① 教育原論』ミネルヴァ書房。</li> <li>○貝塚茂樹他編著(2020)『教職専門シリーズ2 教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房。</li> <li>○長谷川まゆ帆(2007)『世界史リブレット 89 女と男と子どもの近代』山川出版社。</li> <li>○福井憲彦(2017)『興亡の世界史 近代ヨーロッパの覇権』（講談社学術文庫）講談社。</li> <li>○水林 章編(1999)『週刊朝日百科 世界の文学 6 ヨーロッパⅡ ヴォルテール、ルソーほか』朝日新聞社。</li> <li>今井康雄編(2009)『教育思想史』（有斐閣アルマ）有斐閣。</li> <li>○広田照幸(2009)『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店。</li> </ul>

科 目 名	教職概論			
科 目 名 ( 英 語 )	Studies on Teaching Profession	シラバスNo.	260050020	
担 当 教 員 名	小西 二郎			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	○受講生の皆さんが日本の社会の変化との関わりで、教員の仕事、その意義をとらえるという視点から、しかも受講生の皆さん自身で自覚的に考察を深めていくとともに、教職を自らの進路とするかを強く考えるようになることです			
受 講 の 留 意 点	○児童・生徒・学生の視点をこえて、教員としての視点を獲得することを心がけ、その視点から教育について考えるようにして下さい ○新聞を読み、テレビのニュースをみて下さい ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1 テーマ： 社会にとって教職ってなんだろう、そしてその「社会にとっての教職」は自分にとってなんだろう。考えてみよう ○中学・高校の先生は仕事としてどんなことをやっているのか、その概略をおさえます ○日本の社会は、この間、大きく変化し、それにもなつて教職の意義もあらためて問われています——そのことについて考察します ○全体を通して、受講生の皆さんが、自らの進路として教職を選択するかを考える際の観点を獲得できるような内容となることを目指します</p> <p>2 授業の形式 ○応答的な授業展開を心がけます。毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を行います</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ミニレポートに対する応答、ディスカッション</p>			
授 業 の 計 画	<p>1 序章 さあ、教員への第一歩です——この科目の位置づけとねらい・概要</p> <p>2 第1章 教員はどうみられているのだろうか？——教員に対するまなざし</p> <p>3 第2章 さて、わかりますか？ 教員の仕事の全貌 第1節 教員の仕事の特徴</p> <p>4 第2節 学習指導</p> <p>5 第3節 生徒指導・進路指導と学級経営</p> <p>6 第4節 部活動の指導 第5節 校務分掌</p> <p>7 第6節 保護者や地域との連携 第7節 まとめにかえて</p> <p>8 第3章 「チームとしての学校」について考えよう 第1節 「チームとしての学校」導入の経緯 第2節 「チームとしての学校」導入の背景・目的</p> <p>9 第3節 「チームとしての学校」の組織構造</p> <p>10 第4節 「チームとしての学校」——その光と影</p> <p>11 第4章 教員は、社会の中の組織の一員なのだ 第1節 教員には、一定の規律に服する義務がある——服務と規律</p> <p>12 第2節 教員の身分保障と分限・懲戒——公務員である教員の場合</p> <p>13 第5章 教員は教育する人であり、そして研究する人なのだ 第1節 教員研修をめぐる法と制度</p>			

	<p>14 第2節 教員研修の種類</p> <p>15 まとめ あらためて教職の社会的意義や教員像について考えてみよう</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予習 プリントを読んでおく</li> <li>○復習 プリントとノートしたことを読み返すとともに、参考文献を読んで (せめて、いくつかの参考文献の該当部分だけでも) 理解を深める。</li> </ul>
成績評価方法	<p>毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します (ミニレポート 21 点 試験 79 点、計 100 点)。</p>
教科書 (購入必須)	<p>使用しません。</p>
参考書 (購入任意)	<p>主な参考文献は下記の通りです。講義の中で、適宜、他の文献も紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岩田康之・高野和子編(2012)『教職論』(教師教育テキストシリーズ2)学文社。</li> <li>○藤本典裕編著(2019)『新版(改訂二版) 教職入門——教師への道』図書文化。</li> <li>○佐久間亜紀・佐伯 胖編著(2019)『アクティベート教育学 02 現代の教師論』ミネルヴァ書房。</li> </ul>

科 目 名	教育法概論				
科 目 名 ( 英 語 )	Education Law	シラバスNo.	260050030		
担 当 教 員 名	栞山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。				
受 講 の 留 意 点	私の担当講義「人権と法」「日本国憲法」「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は関係が深く、可能なら併せて受講してほしい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>教育法とは、日本国憲法・国際人権条約・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制の下で新たに出発し、国の教育政策とそれに対する抵抗運動の図式の中で発展を遂げてきた。</p> <p>この授業では、教育法の主要法規と典型事例について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務にのぞむ良識を身につけてもらいたい。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 教育法とは何か</li> <li>3 教育法の歴史：旧憲法・教育勅語体制、新憲法・教基法体制、戦後教育法学の展開</li> <li>4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成</li> <li>5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法</li> <li>6 学校教育法：学校制度</li> <li>7 地教行法：教育委員会、教育の地方分権化</li> <li>8 学校安全：学校保健安全法ほか</li> <li>9 国際教育法と日本</li> <li>10 教育権論争</li> <li>11 教科書検定制度</li> <li>12 日の丸・君が代訴訟</li> <li>13 公立学校と政教分離原則</li> <li>14 校則裁判①：熊本丸刈り訴訟、大方商業高校バイク謹慎事件</li> <li>15 校則裁判②：懐風館高校事件、修徳高校バイク退学ノパーマ退学事件</li> </ol>				
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 ( 2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習(90分)：指定教科書・参考書を読む。</li> <li>・復習(90分)：指定教科書・参考書、参考文献を読み直す。講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関や裁判所等のホームページで関心を持った事項について調べてみる。</li> </ul>				
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)				

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) その他追加資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>荒牧重人ほか編「新基本法コンメンタール 教育関係法」(日本評論社、2015) そのほか参考文献を随時紹介する。</p>

科 目 名	教育心理学		
科 目 名 ( 英 語 )	Educational Psychology	シラバスNo.	260050040
担 当 教 員 名	石本 啓一郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	資格要件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	演習 教職：必修		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習にかかわる基礎的な心理学理論を理解する。 (2) 発達の特徴を踏まえた学習を支える指導の基礎的な考え方を修得する。		
受 講 の 留 意 点	積極的に参加してほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	はじめに子どもの心身の発達及び学習に関する基礎理論を学ぶ。その後、乳幼児期から青年期の子どもの心身の発達及び学習にかかわる各論（記憶、知識、概念、動機づけ、集団、評価など）を学ぶ。以上の内容を通して教育実践を心理学的に理解し、自ら検討できるようになることを目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 心理学理論に関するディスカッション、および心理学実験の演習等をおこなう。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：教育するということの倫理</li> <li>2 発達および学習の基礎理論（1）：発達の理論</li> <li>3 発達および学習の基礎理論（2）：学習の理論</li> <li>4 発達および学習の基礎理論（3）：発達と学習の関係</li> <li>5 学習における記憶の役割（1）：乳幼児期から青年期の記憶の発達</li> <li>6 学習における記憶の役割（2）：記憶のしくみ</li> <li>7 知識・概念の学習と発達（1）：乳幼児期から青年期の知識・概念の発達</li> <li>8 知識・概念の学習と発達（2）：知識・概念の変容における対話の役割</li> <li>9 学習への動機（1）：乳幼児期から青年期の動機の発達</li> <li>10 学習への動機（2）：動機づけのしくみ</li> <li>11 学習における集団の役割（1）：友人関係や学級内の集団関係の影響</li> <li>12 学習における集団の役割（2）：個別の学習と集団の学習</li> <li>13 主体的学習の支援に向けて（1）：学習評価の方法</li> <li>14 主体的学習の支援に向けて（2）：外国にルーツをもつ子どもの学習支援</li> <li>15 主体的学習の支援に向けて（3）：インクルーシブな学習環境</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内容を振り返り、下記の参考書および関連文献を読む。		
成 績 評 価 方 法	授業中のディスカッション等への参加（20点）、課題提出（20点）、定期試験（60点）により評価する。		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	授業時に資料を配布する。		
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	『学習・言語心理学』（郷式 徹・西垣順子編、ミネルヴァ書房） 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』（石黒広昭著、東京大学出版会）		

科 目 名	特別支援教育の基礎			
科 目 名 ( 英 語 )	fundament of Special Needs Education	シラバスNo.	260050050	
担 当 教 員 名	坂内 仁			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、各項目において経験に基づく具体的な内容を盛り込むことで、学生が興味や関心を持つとともに教育のやり甲斐を感じることができるようになる。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。障害についての基本的な理解や具体的な支援の方法について理解する。障害等のある子どもの保護者や関係機関との連携について理解する。			
受 講 の 留 意 点	授業の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいこと、学んだことを専門職としてどのように生かしていくかを書いて提出することにしているが、もっと知りたいと思ったことについては、次の講義までに自分でも調べたり考えたりしてみること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	(1) インクルーシブ教育を支える理念、(2) 障害等の理解と支援 (3) 多様な学びの場における教育課程や指導の実際、(4) 家庭及び関係機関との連携、(5) 障害児の自立と社会参加などについて学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯</li> <li>2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの</li> <li>3 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒</li> <li>4 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒</li> <li>5 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒</li> <li>6 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション</li> <li>7 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動</li> <li>8 特別支援学級、通級による指導の教育課程</li> <li>9 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導</li> <li>10 通常の学級における授業づくり</li> <li>11 障害のある子供の就学</li> <li>12 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制</li> <li>13 家庭や関係機関と連携した支援体制の構築</li> <li>14 個別の教育支援計画と個別の指導計画</li> <li>15 障害児の自立と社会参加</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 ( 2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：配布資料を事前に確認しておくこと。 復習：学んだことが日常の生活とどのように関連しているかについて考える。			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーにより、特別支援教育への関心の持ち方や講義内容の理解の状況を把握し、評価する。			

教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	発達障害とはなにか (古荘純一著)

科 目 名	教育課程論			
科 目 名 ( 英 語 )	Curriculum Theory	シラバスNo.	260050060	
担 当 教 員 名	河合 宣孝			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	北海道立高校で34年間、教諭、教頭、校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義実践に努めている。学習指導要領と教育課程編成の学習においては、学校現場における教育課程編成の実際について体験的に学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントについて学校経営・学校運営の経験に基づく具体例を紹介しながら学びを展開していく。			
対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。 ② 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握するとともに、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるすることができる。 ③ 各学校における実際の教育課程表を読み取りその教育内容を考察するとともに、自らが担当する教科科目を教育課程に位置付けて教育内容を構想することができる。			
受 講 の 留 意 点	・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題や学校課題解決のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（割り当てや資料作成方法などは講義で説明します）。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校における教育課程編成の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、新学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開の在り方とその課題を考察する。あわせて法令を踏まえた教育課程の編成・実施の実際について学び、カリキュラム・マネジメントを通じて生徒に求められる資質・能力をいかにして身に付けさせるかについて考察する。 アクティブ・ラーニングの内容 ①個人ワーク、ペアワーク、グループワーク等をその都度実施することを通じて、「思考と対話の実践」を多く取り入れる。 ②学生全員が高校時代(中学時代)に経験した学習の教育課程表を再現しグループ活動で説明する。 ③学生全員が、割り当てられた教科書のPPT資料を作成・発表する「輪読発表」を通じて「まとめの力、発表する力」を獲得する機会とする。			
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響 11 様々な教育課程の改革 12 新しい学習指導要領の検討（1）理念・キーワード 13 新しい学習指導要領の検討（2）改訂内容など 14 教育課程の現代的課題（カリキュラム・マネジメント等について） 15 講義のまとめ			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間)    うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】  予習 (60 分) 各講の教科書の該当ページについて事前に読んで予習をして授業に臨んでください。  復習 (60 分) 講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習をしてください。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>■レポートや演習課題等の提出 (30 点) ■まとめの演習課題提出 (30 点)  ■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果 (40 点)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>古川治ほか編(2019)『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>文部科学省 (2018)「高等学校学習指導要領」(平成 30 年 3 月告示)  田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 (2018)「新しい時代の教育課程[第 4 版]」有斐閣</p>

科 目 名	道徳教育論		
科 目 名 ( 英 語 )		シラバスNo.	260050070
担 当 教 員 名	日下部 憲一		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	講 義 資格要件 教職(栄養)：必修 教職(高公・高福)：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道徳は「特別の教科 道徳」として教科化され、各学校では検定教科書が使用されている。中学校道徳科教科書「新しい道徳」(令和3年度発行 東京書籍株式会社)の編集委員として教科書、教師用指導書等の執筆及び校閲に当たった。実務経験を活かして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の実践的課題や展望等を踏まえ、教育現場に求められる教員の資質・能力及び実践的指導力の向上とその在り方について説明していきたい。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>学修テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳の理論：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。</li> <li>2 道徳の指導法：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1)：道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。</li> <li>1-2)：道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。</li> <li>1-3)：子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。</li> <li>1-4)：学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。</li> <li>2-1)：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。</li> <li>2-2)：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。</li> <li>2-3)：道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。</li> <li>2-4)：授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。</li> <li>2-5)：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。</li> <li>2-6)：模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol> </li> </ol>		
受 講 の 留 意 点	日頃から書籍や新聞報道等を通して身近な教育問題に関心を持つとともに、事前・事後学修を適切に行い常に課題意識をもち授業に臨む。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。</p> <p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>毎回の授業でのグループワーク（含む討議）やポスターセッションによる発表会を通して、多様な見方・考え方を深めるとともに、問題解決的な学習等を積極的に取り入れながら実践的指導力の向上を図る。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション及び道徳教育の意義、道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等）</li> <li>2 道徳教育の歴史（戦前と戦後）及び道徳の理論（本質、子供の道徳性の発達等）</li> <li>3 道徳教育の実際1（道徳教育と道徳科の目標及び道徳科の内容）</li> <li>4 道徳教育の実際2（指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方）</li> <li>5 道徳教育の実際3（アクティブ・ラーニングを位置づけた課題解決的な学習やモラルジレンマ学習等学習指導の多様な展開及び情報モラル等の現代的課題の指導）</li> <li>6 道徳教育の実際4（教材開発の創意工夫と道徳科に生かす教材）</li> <li>7 道徳教育の実際5（道徳科の評価）</li> <li>8 道徳授業の実際1（アクティブ・ラーニングを位置づけた読み物教材「おかあさんのせい求書」の模擬授業）</li> <li>9 道徳授業の実際2（読み物教材「バスと赤ちゃん」の模擬授業と授業改善の視点）</li> <li>10 学習指導案の研究と作成1（読み物教材による学習指導案の研究）</li> </ol>		

	<p>11 学習指導案の研究と作成 2（読み物教材による研究結果から学習指導案の作成）</p> <p>12 学習指導案の研究と作成 3（視聴覚教材による学習指導案の研究）</p> <p>13 学習指導案の研究と作成 4（新聞教材による学習指導案の研究）</p> <p>14 学習指導案の研究発表と意見交流（ポスターセッションによる発表会）</p> <p>15 道徳教育のまとめと展望（道徳の本質と子供の心の成長及び教育活動全体を通じた指導の在り方等）及び試験</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：授業計画に示された学修内容を確認し、適宜教科書等を読むなど疑問や課題等を把握する。</p> <p>復習：授業で配付されたワークシートを振り返り学修内容を復習するとともに、課題レポート等をまとめる。</p>
成績評価方法	<p>次項の項目及び割合で総合的に評価する。</p> <p>■試験：50 % ■課題レポート：25 % ■学習態度・発表：25 %</p> <p>試験（第15回目の授業で実施する）：50点 課題レポート（5回）：25点（5点×5回）</p> <p>学習態度・発表：25点（毎回の授業の自己評価カード 1点×15回 + ポスターセッションによる発表作品 10点）</p>
教科書（購入必須）	<p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（教育出版）</p>
参考書（購入任意）	<p>授業中に適宜資料（含むワークシート）配付する。</p>

科 目 名	総合的な探究の時間の指導法			
科 目 名 ( 英 語 )	Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study	シラバスNo.	260050080	
担 当 教 員 名	松田 剛史			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	・中学校及び高等学校での教員経験を活かした実務的な内容に関わる授業を実施する			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の意義と目標を理解することができる。</li> <li>・教育活動としての効果的な総合的な探究の時間のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>			
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>総合的な探究の時間の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際のかつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・課題解決活動</li> </ul>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ～総合的な探究の時間とは何か～</li> <li>2 総合的な探究の時間の教育的意義と目標</li> <li>3 総合的な探究の時間の実践の実際と留意点</li> <li>4 教育活動の評価とカリキュラム・マネジメント</li> <li>5 演習①～フィールドワークを準備する～</li> <li>6 演習②～フィールドワークを経験する～</li> <li>7 演習③～主体的で体験的な探究の指導を計画する～</li> <li>8 総合的な探究の時間という教育活動は何だったか</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を読み込み、次回の講義への準備</li> <li>・事後課題への取り組み</li> <li>・主に演習課題に対するグループ内での課題解決に関する自主的な活動</li> </ul>			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60 点)</li> <li>・レポートや各種学習成果に関する提出物(40 点)</li> </ul>			
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2025 年</li> <li>2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房 2018 年</li> </ol>			
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜情報を提供する</li> </ul>			

科 目 名	特別活動論				
科 目 名 ( 英 語 )	Extra-curricular Activities	シラバスNo.	260050090		
担 当 教 員 名	松田 剛史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	・中学校及び高等学校での教員経験を活かした実務的な内容に関わる授業を実施する				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義と目標を理解することができる。</li> <li>・教育活動としての効果的な特別活動のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>				
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別活動の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う 実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。				
	アクティブ・ラーニングの内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・課題解決活動</li> </ul>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ～特別活動とは何か～</li> <li>2 特別活動の歴史の変遷</li> <li>3 特別活動の教育的意義と目標</li> <li>4 学級活動・ホームルーム活動の実践</li> <li>5 児童会・生徒会活動／クラブ活動／学校行事の実践</li> <li>6 演習①～指導計画を構想する～</li> <li>7 演習②～指導計画を作成する～</li> <li>8 特別活動という教育活動は何だったか</li> </ol>				
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間				
	<b>【授業時間外学修時間の主な内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容を読み込み、次回の講義への準備</li> <li>・事後課題への取り組み</li> <li>・主に演習課題に対するグループ内での課題解決に関する自主的な活動</li> </ul>				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点)</li> <li>・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点)</li> </ul>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2025年</li> <li>2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房 2018年</li> </ol>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	・適宜情報を提供する				

科 目 名	教育方法・技術論（ICT 活用の理論と実践を含む）			
科 目 名（英 語）	Educational Methods and Techniques (and Theories and Practices for ICT in Education)	シラバスNo.	260050100	
担 当 教 員 名	石川 貴彦			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得するとともに、ICT を活用した学習指導や情報活用能力の育成について理解する。また、ICT を用いたマイクロティーチング（模擬授業）を実践し、そこから得た学習履歴を用いてデータの可視化や分析を行うことで、自身の教育方法を客観的に捉え授業を改善していく力を身につける。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教材研究、授業設計、学習評価、教育技術、ICT 活用といった授業を構成するためのプロセスを項目ごとに学習し、教育方法および技術と、ICT を活用した教育に関する理論および方法を習得する。これらを踏まえてマイクロティーチングの相互実践を行い、データの可視化・分析を通じて指導力向上や ICT の有効活用について検討する。なお、授業計画の各回に示した（方）は教育方法・技術、（I）は ICT 活用の理論と実践を表し、マイクロティーチングでは両方の要素が含まれる。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、指導案・教材作成、模擬授業など実践的な学習を多く取り入れる。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これからの子どもたちに求められる教育方法の在り方（方）、LMS の登録・使用方法（I）</li> <li>2 授業を構成する基礎的な要件、教材づくりの発想と工夫（方）</li> <li>3 学習目標と評価、観点別学習状況の評価に応じた授業設計（方）</li> <li>4 ICT 活用の意義と理論、特別の支援を必要とする児童生徒に対する ICT 活用の留意点（I）</li> <li>5 教育技術、発問・板書の工夫、教材・教具の使い方（方）</li> <li>6 情報活用能力・情報モラルを育成するための指導法（I）</li> <li>7 学習指導案の書き方および作成（方）</li> <li>8 指導案に基づくデジタル教材の作成（I）</li> <li>9 教師主導から子ども主体の授業へ、アクティブ・ラーニングの考え方・実践（方）</li> <li>10 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（栄養教諭）（方・I）</li> <li>11 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校公民）（方・I）</li> <li>12 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校福祉）（方・I）</li> <li>13 教育データの可視化・テキストマイニングによる授業分析・授業改善（I）</li> <li>14 校務支援システムを活用した校務の推進、データ共有、セキュリティ（I）</li> <li>15 よりよい教育方法を目指して（方）、ICT 活用における外部との連携・環境整備（I）</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 （予 習・復 習）の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進めること。 講義内容を振り返り、自身の教育方法や教育技術に反映させること。</p>			
成 績 評 価 方 法	マイクロティーチングの実践・相互評価（40%）、期末レポート（40%）、指導案作成（6%）、授業分析シート（7%）、授業評価のリフレクションシート（7%）			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>使用しない。授業中に資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>食に関する指導の手引（第二次改訂版）（平成 31 年 3 月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 公民編（平成 30 年 7 月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成 30 年 7 月 文部科学省）          自分が小・中学校・高校時に使用していた教科書・資料を用意すること</p>

科 目 名	生徒指導論			
科 目 名 ( 英 語 )	Student teaching theory	シラバスNo.	260050110	
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	学校教育教員、社会教育主事などの経験から、実際の教育現場での出来事を例示しながら授業を展開していく。また、注目されている教育問題（時事問題）を取り上げ、実践的な知識の育成を図る。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができるようになる。 ②生徒指導に係る教師のスタンスを理解するとともに、場面に応じた自分の考えを持つことができるようになる。 ③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができるようになる。 ④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について、事例をもとに学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 ケーススタディ、グループワーク、グループディスカッション			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題 2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒指導の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①－様相 11 問題行動②－種類と原因 12 問題行動③－処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 時間×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 指定した資料（生徒指導提要）を事前に読んでおくこと。授業の中で示す課題について、ノートにまとめておく。			
成 績 評 価 方 法	1. 定期試験 85% 2. リアクションペーパー 15%（授業の感想、課題提出など） 3. 授業態度を加味する			

教科書 (購入必須)	授業ごとに資料を用意する。
参考書 (購入任意)	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要(改訂版)(文部科学省 令和4年12月)については、文科省のhpから閲覧できるので適宜活用すること。

科 目 名	学校カウンセリング		
科 目 名 ( 英 語 )	School Counseling	シラバスNo.	260050120
担 当 教 員 名	真名瀬 陽平		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	資格要件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	学校現場において幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識など）を身に付ける。また、学校における教育相談の意義や課題、具体的な進め方や連携について理解する。		
受 講 の 留 意 点	本科目は、特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義です。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学校における教育相談の必要性や意義などを踏まえたうえで、カウンセリングの技法（カウンセリング・マインド含む）について学び、実際の学校における様々な課題について、教育相談の観点から考えていきます。その後、アセスメントや教育相談の計画の作成、校内体制の整備や地域の専門機関との連携などについて学び、学校における教育相談に必要な知識や姿勢を身に付けていきます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小レポートや小テストなどを課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、講義内容に応じて個人発表やロールプレイ、グループワークなどを実施します。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 教育相談の必要性と意義とは</li> <li>2 カウンセリングの理論</li> <li>3 カウンセリングの技法</li> <li>4 学校における諸課題とその対応（1）いじめ</li> <li>5 学校における諸課題とその対応（2）不登校</li> <li>6 学校における諸課題とその対応（3）虐待</li> <li>7 学校における諸課題とその対応（4）自殺</li> <li>8 学校における諸課題とその対応（5）非行</li> <li>9 学校における諸課題とその対応（6）発達障害</li> <li>10 学校における諸課題とその対応（7）ストレスや精神疾患</li> <li>11 校内連携・専門機関や地域との連携</li> <li>12 教育相談におけるアセスメント（1）行動観察法・面接法</li> <li>13 教育相談におけるアセスメント（2）心理検査法</li> <li>14 家庭の理解と保護者への支援</li> <li>15 キャリア教育と心理相談</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 毎時間の授業において、次回の講義の内容について予告をします。その内容についてインターネットや書籍を利用して調べ、要点をまとめたり、疑問をもつことを予習とします。また、復習として、小テストや小レポートなどの課題を課しますので、必ず期日までに取り組んでください。</p>		

成績評価方法	毎回の授業において課される課題（50%）、定期試験（50%）で評価します。
教科書 （購入必須）	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。
参考書 （購入任意）	教育相談[第2版]（森田健宏・吉田佐治子編著、ミネルヴァ書房） 生徒指導提要（改訂版）（文部科学省）

科 目 名	進路指導及びキャリア教育			
科 目 名 ( 英 語 )	Career Guidance & Career Education	シラバスNo.	260050130	
担 当 教 員 名	小西 二郎			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職 (高公・高福) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	○受講生の皆さんが、社会の変化との関わりでとらえるという見方で高校生の生活・ライフコースにアプローチしつつ、進路指導・キャリア教育について自覚的に考察できるようになること			
受 講 の 留 意 点	○高校生の生きづらさや将来に対する見通しの不透明さはどのようなものか、それらは日本謝意の変化とどのように関係しているのかについて考えるようにして下さい ○新聞を読み、テレビのニュースをみて下さい ○毎回ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	1 テーマ： 日本社会の変化と進路指導・キャリア教育 ○日本社会の変化との関わりで進路指導・キャリア教育をとらえ、その困難性と課題について検討します 2 授業の形式 ○応答的な授業展開を心がけます。例えば、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭であるいはリアクション・ペーパーも用いて行います			
	アクティブ・ラーニングの内容 ミニレポートに対する応答、ディスカッション			
授 業 の 計 画	1 序章 本科目の概要とウォームアップ 2 第1章 進路指導原理の転換及びキャリア教育の導入の経緯と背景 3 第2章 高等学校における進路指導・キャリア教育の制度的枠組み——文科省系キャリア教育論の転換の意義と限界について考える 第1節 学校教育における進路指導・キャリア教育の根本的な法的根拠 第2節 第4期教育振興基本計画におけるキャリア教育に関する見解をめぐって 4 第3節 高等学校学習指導要領について 5 第3章 高等学校における進路指導・キャリア教育の原理的困難性 6 第4章 高等学校における進路指導・キャリア教育の実際 第1節 進路指導の実際 7 第2節 多くの高校における進路指導・キャリア教育全体の展開の実際 8 第5章 高等学校における進路指導・キャリア教育の内容・方法における留意点			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間 ( 1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 ○予習 プリントを読んでおく ○復習 プリントとノートしたことを読み返すとともに、参考文献を読んで (せめて、いくつかの参考文献の該当部分だけでも) 理解を深める。			
成 績 評 価 方 法	毎回書いていただくミニレポートと試験の結果をもとに評価します (ミニレポート 21 点、試験 79 点、計 100 点)。			
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	使用しません。			
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	主な参考文献は下記の通りです。講義の中で、適宜、他の文献も紹介します。 ○春日井敏之・山岡雅博編著(2019)『新しい教職教育講座 教職教育編⑩ 生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房。			

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>○山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志(2014)『新しい時代の生活指導』(有斐閣アルマ) 有斐閣。</li><li>○林 尚志(2014)『生徒指導・進路指導』(新・教職課程シリーズ) 一藝社。</li><li>○仙崎 武他編(2000)『入門進路指導・相談』福村出版。</li><li>○濱口桂一郎(2013)『若者と労働——「入社」の仕組みから解きほぐす』(中公新書ラクレ) 中央公論新社。</li><li>○澤田 幹他(2016)『ヒト・仕事・職場のマネジメント——人的資源管理の理論と展開』ミネルヴァ書房。</li><li>○黒田兼一(2018)『戦後日本の人事労務管理』ミネルヴァ書房。</li><li>○佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2023)『新しい人事労務管理 第7版』有斐閣。</li></ul> |
|--|---|

科 目 名	栄養教諭論			
科 目 名 ( 英 語 )	Nutrition Teacher Theory		シラバスNo.	260050140
担 当 教 員 名	伊藤 智代			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(栄養):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、職務上基礎的な知識である「学校給食の管理」及び「食に関する指導」について理解を深めさせる科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	1.児童生徒の現状・課題を踏まえ食に関する指導の必要性、学校給食の意義、役割等を説明できる。 2.栄養教諭の職務である学校給食の管理及び食に関する指導について理解を深め、栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関する専門性及び栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる力を活用できる。			
受 講 の 留 意 点	栄養教諭は管理栄養士・栄養士を有する教師である。全ての基本は「給食管理」であることを認識し、自ら課題を持ち意欲的に授業に臨んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達・食生活習慣などについて理解し、学校における食に関する指導の現状、課題の抽出、分析を行い、偏食や食物アレルギー、さらに肥満、糖尿病などの生活習慣病を予防する上で、児童生徒、保護者に対する有効な食に関する指導のあり方について論じる。</p> <p>②学校給食および食に関する指導にかかわる法令を理解する。</p> <p>③食に関する指導と各教科および給食管理のかかわりについて理解する。</p> <p>④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき、指導案の作成に繋がることを理解する</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。</li> <li>・講義内容に関わる課題を提示し、グループディスカッションを行う。</li> </ul>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス(シラバス説明)・栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達の現状と課題</li> <li>2 児童生徒の生活状況</li> <li>3 学校給食、食に関する指導の歴史</li> <li>4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令</li> <li>5 「食に関する指導」(1)ー全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点</li> <li>6 「食に関する指導」(2)ー指導計画・成果・評価</li> <li>7 「食に関する指導」(3)ー①給食の時間 ②発達段階に応じた内容</li> <li>8 「食に関する指導」(4)ー教科「総合的な学習の時間」「特別活動」</li> <li>9 「食に関する指導」(5)ー教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」</li> <li>10 「食に関する指導」(6)ー教科「道徳」「生活科」</li> <li>11 「食に関する指導」(7)ー個別栄養相談指導 家庭・地域との連携</li> <li>12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成</li> <li>13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準</li> <li>14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理</li> <li>15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 ( 2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習:「栄養教育論」「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む</p> <p>復習:講義内容を振り返りノートにまとめる</p> <p>*講義時に提示する資料に予習・復習について記載する。</p>			

成績評価方法	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。
教科書 (購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4 訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ二次改訂版-i』 文部科学省 東山書房
参考書 (購入任意)	『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月ー平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版

科 目 名	食生活・食文化論			
科 目 名 ( 英 語 )	Nutrition and Food Culture Theory	シラバスNo.	260050150	
担 当 教 員 名	伊藤 智代			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(栄養):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食に関する指導の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、日本の食生活の変遷や現状について知識を深め、地域の風土及び伝統に根ざした文化的な営みや食文化の継承、地場産物に関する知識を修得し、児童生徒へ食に関する指導ができるようになる。			
受 講 の 留 意 点	食生活と食文化及び地域について広く関心を持ち、栄養教諭を目指すものとしての自覚と自らの課題を持ち授業に臨んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習をし食文化継承、行事食、地場産品を活用することの意義について理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。</li> <li>・ 地場産物について調べ発表する。(G,W)</li> <li>・ 模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。</li> </ul>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス (シラバス説明)、日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭における食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 地場産物と食に関する指導</li> <li>8 地場産物と学校給食①北海道の地場産物</li> <li>9 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物</li> <li>10 演習①関心のある地域の地場産物調べ</li> <li>11 演習②給食における地場産物の活用 (学校給食献立作成) (学校給食衛生管理基準)</li> <li>12 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える (地場産物活用の授業づくり)</li> <li>13 演習④地場産物を用いた給食を教材として活用する授業の指導案作成</li> <li>14 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半 グループ)</li> <li>15 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半 グループ)</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習:「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む</p> <p>復習:講義内容を振り返りノートにまとめる</p> <p>* 講義時に提示する資料に予習・復習について記載する。</p>			
成 績 評 価 方 法	提出物提出状況 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に評価する。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房)          文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)          文部科学省『中学校学習指導要領』(東京書籍)          金田雅代編著『栄養教諭論-理論と実際- 3訂』建帛社、2009年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	食教育指導論			
科 目 名 ( 英 語 )	Food Education Teaching Theory	シラバスNo.	260050160	
担 当 教 員 名	伊藤 智代			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(栄養):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見ることができるようになる。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得し児童生徒と保護者・地域への食に関する指導が行えるようになる。			
受 講 の 留 意 点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり、課題が多い科目であるため、予習復習を充分に行い、積極的に取り組んでほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	栄養教諭として各自テーマをもつことができるよう知識を凝集していき、各自テーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教諭実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後に振り返り内容について次の授業時に意見交換を行う。 ・個別的な相談をG.Wで演習する。 ・模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス:「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性</li> <li>2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開</li> <li>3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進</li> <li>4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価</li> <li>5 食に関する指導の教育理論と技術、新学習指導要領(2027)</li> <li>6 栄養教諭の職務の実際(1)学校における職務内容(校務分掌)</li> <li>7 栄養教諭の職務の実際(2)調理場における職務内容(衛生管理)</li> <li>8 食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとで行う職務の実際</li> <li>9 給食時間における食に関する指導の授業づくり</li> <li>10 教材研究(媒体・ICT教材など)、指導案作成</li> <li>11 給食を教材として活用する授業の指導案作成(1)教科目標と会に関する指導</li> <li>12 給食を教材として活用する授業の指導案作成(2)</li> <li>13 給食における食に関する指導の模擬授業(1)発表会(前半グループ)</li> <li>14 給食における食に関する指導の模擬授業(2)発表会(前半グループ)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間(2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】  予習：「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む  復習：講義内容を振り返りノートにまとめる  *講義時に提示する資料に予習・復習について記載する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>提出物提出状況(30点)、試験(70点)により総合的に評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房)  金田雅代編著『栄養教諭論-理論と実際-3訂』建帛社、2009年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東京書籍  『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 東山書房  『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』文部科学省 東洋館出版社  『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』文部科学省 ぎょうせい  『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』文部科学省 東洋館出版社  『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成29年7月)』文部科学省 教育図書  『小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月)』文部科学省 東洋館出版社  『中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月)』文部科学省 東山書房  『小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』文部科学省 東洋館出版社  『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』文部科学省 ぎょうせい  『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月—平成29年告示』文部科学省 廣済堂あかつき  『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』文部科学省 教育出版</p>

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導			
科 目 名 ( 英 語 )	Teaching Practice of Nutrition Teacher :Pre- and Post-Guidance	シラバスNo.	260050170	
担 当 教 員 名	伊藤 智代			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択		資 格 要 件 教職 ( 栄 養 ) : 必 修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に必要な知識や技術を確実に身につけることができる。 事後指導では、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにすることができる			
受 講 の 留 意 点	栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教諭実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関しての課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。(媒体作成など) 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ・実習者が模擬授業の練習時、他学生は児童生徒として参加する。			
授 業 の 計 画	1 ガイダンス、栄養教育実習の意義、目的、内容 2 栄養教育実習のための準備と心得 3 模擬授業・媒体作成 4 模擬授業・媒体作成 5 模擬授業 6 模擬授業 7 実習ノート整理・課題の明確化 8 栄養教育実習報告会			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間 ( 1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業作り準備 復習：模擬授業の反省・修正			
成 績 評 価 方 法	提出物 ( 50 点 )、模擬授業 ( 50 点 ) の内容などから総合的に評価する。			
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	栄養教育実習日誌 ( 担当教員作成 ) 教育実習の手引き ( 第 6 版 ) 学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。			
参 考 書 ( 購 入 任 意 )				

科 目 名	栄養教育実習			
科 目 名 ( 英 語 )	Teaching Practice of Nutrition Teacher	シラバスNo.	260050180	
担 当 教 員 名	伊藤 智代			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択		資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解させ、実習校指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行い、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解させるための科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	教育実習を通じて学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解できる。指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行うことができる。 また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
受 講 の 留 意 点	教育実習に必要な準備を整えて臨むこと。 健康管理に十分に留意して実習に専念すること。 実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 ・研究授業をはじめ児童生徒や教職員との関わりすべて。			
授 業 の 計 画	1 学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解 2 児童および生徒への個別的な相談、指導の実習 3 児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習 4 食に関する指導の連携・調整の実習 5 研究授業の実施・事後研修			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 ( 2 単 位 × 45 時 間 ) うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 45 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：実習日程表に沿った翌日の実習準備 復習：実習内容と反省を実習ノートに記載。 *実習ノートは毎日記載後、指導担当教諭へ提出する。			
成 績 評 価 方 法	実習校による「実習評価票」、出席状況、実習ノート等の提出物などから総合的に評価する。			
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	栄養教育実習日誌 ( 担当教員作成 ) 教育実習の手引き ( 第 6 版 ) 学術図書出版社 教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。			
参 考 書 ( 購 入 任 意 )				

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）			
科 目 名（英 語）	Practical Seminar for the Teaching Profession :For Nutrition teacher	シラバスNo.	260050190	
担 当 教 員 名	伊藤 智代・小西 次郎			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職（栄養）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食育や学校給食管理そして学校組織の一員の経験を持つ教員が、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させ、さらに現役の校長・学級担任・特別支援などの教員をゲストスピーカーとして招き実務についての知識を修得させる科目。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することができる。このような学びを通じて、学生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を身に付ける。			
受 講 の 留 意 点	栄養教育実習などの振り返りを生かして進める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う 教育現場から教員・校長・栄養教諭などにゲストスピーカーとして講義していただく。			
	アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返りの内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・ゲストスピーカーの講義後GWで意見交換を行う。			
授 業 の 計 画	1 教職論 教員の職務内容について振り返る（合同） 2 教職論 授業技術と教員の姿勢（合同） 3 教職論 生徒指導の現局面（合同） 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（合同） 5 学級経営 校務分掌と教職員の協働(栄養) 6 学級経営 学級づくりの実践（栄養） 7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査（栄養） 8 学校給食管理 講義・グループ討論（栄養） 9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画（栄養） 10 学習指導 教材研究と指導案（栄養） 11 学習指導 授業研究・模擬授業（栄養） 12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導（栄養） 13 生徒指導 ケーススタディ（栄養） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（栄養） 15 教職論 教員の使命・責任——「教育における自由」に着目して考える			
授 業 時 間 外 学 修 （予 習・復 習）の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業計画に沿って指示された資料等を読み込む 復習：配布資料に沿って授業を振り返りレポートを記載 ※毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。			
成 績 評 価 方 法	振り返り提出状況（30点）、GW参加状況（30点）、レポート（40点）により総合的に評価する。			

教科書 (購入必須)	なし(授業毎に教員作成資料を配布)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	倫理学				
科 目 名 ( 英 語 )	Ethics	シラバスNo.	260050200		
担 当 教 員 名	南 孝典				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職 (高公) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	(1) 主要な倫理学理論を説明できる。 (2) 異なる理論を比較し評価できる。 (2) 高校倫理の授業構想に応用できる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	この講義では、功利主義、義務論、徳倫理学などの規範倫理学理論を中心に、正義論、ケアの倫理、医療倫理の四原則など、主要な倫理思想について解説する。思想史的展開を整理する。授業の方法については、主に PowerPoint とそれを印刷したプリントを使って授業を進めていく。毎回 A4 サイズのプリントを配布するので、そのためのファイルを用意しておくこと。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス：倫理学とは何か 2 倫理学の領域 3 規範倫理学 (1) 功利主義 4 規範倫理学 (2) 義務論 5 規範倫理学 (3) 徳倫理学 6 メタ倫理学 7 ケアの倫理 8 医療倫理の四原則 9 契約論 10 正義論 11 現代の応用倫理学 12 現代社会の倫理問題 (1) 人権をめぐる 13 現代社会の倫理問題 (2) 正義をめぐる 14 倫理学と教育 15 定期試験				
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】				
成 績 評 価 方 法	授業内課題の提出 (20%) と試験 (80%) の結果をもとに総合的に判断し、60 点以上を合格とする。なお、成績評価の詳細については初回のガイダンスでも詳しく説明する。				

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>教科書は使用しない。必要な資料を適宜配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>柘植尚則他著『入門・倫理学の歴史 24 人の思想家』梓出版社          小松光彦他著『倫理学案内 理論と課題』慶應義塾大学出版会          宇都宮芳明編著『倫理学を学ぶ人のために』世界思想社</p>

科 目 名	公民科指導法 I		
科 目 名 ( 英 語 )		シラバスNo.	260050210
担 当 教 員 名	小田島 数幸		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴公民科教諭として地域に根ざした教育実践を展開。教頭・校長としても地域と高校の結びつきを強固な形として残す。現在は大学非常勤講師として歴史学を完全ペーパーレスで実施。さらに、市教委生涯学習推進アドバイザー、起業して高校生を応援する事業を展開する一方、部活動地域展開の指導、社会教育委員、学校運営協議会委員などでの知見で課題解決への考察を深める。		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>(1) 高等学校「公共」の教科書を用い、学習指導案作成の能力を身に付ける。</p> <p>(2) 学習指導案に基づいた模擬授業をととして、教科指導の力を身に付ける。</p> <p>(3) 実効性ある年間学習指導計画（高等学校「公共」）を各自が完成させる。</p> <p>(4) 模擬授業の合評会や、評価方法の研究への討議をととして、建設的な発言ができる力を身に付ける。</p> <p>(5) 高等学校社会科の変遷、高等学校学習指導要領の解説、教育法制に係る基礎知識をととして、公民科教育の全体像を把握する力を身に付ける。</p> <p>(6) 対話型でのコミュニケーション能力の向上と、ファシリテーションのスキルを身に付ける。</p> <p>(7) 職員室での同僚性、生徒指導の法的解釈、部活動における指導理念、学校行事における伝統と学校文化、地域活動における社会性の涵養など、公民科教員に求められる資質について想像できる態度を身に付ける。</p>		
受 講 の 留 意 点	各回の授業計画の単元に沿い、任意の小項目について授業 1 時間分の学習指導案および板書計画を作成してプレゼンを行なう。また、各回のテーマに沿った討議のファシリテーションを担当する。学生は各自のデバイスを持参して集合し、主体的・意欲的な授業参加を期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>各回 3 コマずつの集中講義とする。翌年の教育実習を見すえ、教科指導への万全の準備を目指すとともに、公民科教師としての資質を備えるための視野・思考力の広がりをも事例研究から探る。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 プレゼンテーション・討議・批評、ICT を活用しながら、PBL 型講座を軸として展開する。</p>		
授 業 の 計 画	<p>1 2 3 高等学校社会科教育／公民科教育の変遷、高等学校学習指導要領（公民科）の解説、学習指導案の作成方法について</p> <p>4 5 6 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：公共と人、公共と倫理） 討議 1（テーマ：「児童生徒のグループ問題」）</p> <p>7 8 9 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：公共の基本原則） 討議 2（テーマ：生徒指導再考「校則」）</p> <p>10111 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：政治参加、国政と地方自治） 2 討議 3（テーマ：生徒指導再考「生徒指導と教師」）</p> <p>13141 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：法と社会、契約と消費、司法と裁判） 5 討議 4（テーマ：「そして子どもたちはきずつく」）</p>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：学習指導案・板書計画を作成し、プレゼン準備を行なって授業に臨む。 復習：この日のプレゼンへのふり返りと、年間指導計画作成に向けた準備を整える。</p>		
成 績 評 価 方 法	評価は各回の学習指導案への取組と完成度、討議での論点と他者理解をもとに総合的に行う。なお、作成したプレゼン資料は紙媒体で当日提出とする。		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>○ 高校用教科書『新訂版 高等学校 公共』教育図書株式会社（6・教図・公共 006-901）</p> <p>○ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編』東京書籍株式会社</p>		
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	○ 高等学校「公共」の各出版社が発行する資料集		

科 目 名	公民科指導法Ⅱ		
科 目 名 ( 公 民 )		科目ナンバリング	260050220
担 当 教 員 名	小田島 数幸		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴公民科教諭として地域に根ざした教育実践を展開。教頭・校長としても地域と高校の結びつきを強固な形として残す。現在は大学非常勤講師として歴史学を完全ペーパーレスで実施。さらに、市教委生涯学習推進アドバイザー、起業して高校生を応援する事業を展開する一方、部活動地域展開の指導、社会教育委員、学校運営協議会委員などでの知見で課題解決への考察を深める。		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>(1) 高等学校「公共」の教科書を用い、学習指導案作成の能力を身に付ける。</p> <p>(2) 学習指導案に基づいた模擬授業をとおして、教科指導の力を身に付ける。</p> <p>(3) 実効性ある年間学習指導計画（高等学校「公共」）を各自が完成させる。</p> <p>(4) 模擬授業の合評会や、評価方法の研究への討議をとおして、建設的な発言ができる力を身に付ける。</p> <p>(5) 高等学校社会科の変遷、高等学校学習指導要領の解説、教育法制に係る基礎知識をとおして、公民科教育の全体像を把握する力を身に付ける。</p> <p>(6) 対話型でのコミュニケーション能力の向上と、ファシリテーションのスキルを身に付ける。</p> <p>(7) 職員室での同僚性、生徒指導の法的解釈、部活動における指導理念、学校行事における伝統と学校文化、地域活動における社会性の涵養など、公民科教員に求められる資質について想像できる態度を身に付ける。</p>		
受 講 の 留 意 点	各回の授業計画の単元に沿い、任意の小項目について授業 1 時間分の学習指導案および板書計画を作成してプレゼンを行なう。また、各回のテーマに沿った討議のファシリテーションを担当する。学生は各自のデバイスを持参して集合し、主体的・意欲的な授業参加を期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>各回 3 コマずつの集中講義とする。翌年の教育実習を見すえ、教科指導への万全の準備を目指すとともに、公民科教師としての資質を備えるための視野・思考力の広がり事を事例研究から探る。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 プレゼンテーション・討議・批評、ICT を活用しながら、PBL 型講座を軸として展開する。</p>		
授 業 の 計 画	<p>1 2 3 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：政治参加、国政と地方自治） 討議 5（テーマ：不登校「分析と分類」「分析と見立て」）</p> <p>4 5 6 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：国家主権と領土問題、安全保障、国際社会の日本） 討議 6（テーマ：不登校「登校刺激」「場面ごとの不登校対応」）</p> <p>7 8 9 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：職業選択、労働問題、市場経済） 討議 7（テーマ：「職員室の心理学」）</p> <p>10111 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：金融、社会保障、財政と税） 2 討議 8（テーマ：「保護者との信頼関係を築く対応」）</p> <p>13141 学習指導案・板書計画のプレゼン（単元：国際経済、持続可能な社会へ） 5 年間学習指導計画の完成 討議 9（テーマ：「職員室の同僚性」）</p>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：学習指導案・板書計画を作成し、プレゼン準備を行なって授業に臨む。 復習：この日のプレゼンへのふり返りと、年間指導計画作成に向けた準備を整える。</p>		
成 績 評 価 方 法	評価は各回の学習指導案への取組と完成度、討議での論点と他者理解をもとに総合的に行う。上記配点 50 点、年間学習指導計画の完成度の配点 50 点、計 100 点で表わす。		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>○ 高校用教科書『新訂版 高等学校 公共』教育図書株式会社（6・教図・公共 006-901）</p> <p>○ 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編』東京書籍株式会社</p>		
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	○ 高等学校「公共」の各出版社が発行する資料集		

科 目 名	福祉科教育法 I			
科 目 名 ( 英 語 )	Methods of Teaching Social Welfare I	シラバスNo.	260050230	
担 当 教 員 名	大坂 祐二			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職 (高福) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容を理解する。国民的課題としての社会福祉を青年期に学ぶ意義について考察し、授業設計に活用することができる。			
受 講 の 留 意 点	高校福祉科の多くは、介護福祉士の資格取得をめざす課程です。福祉科の高校になじみがない人も多いと思いますが、介護技術など一部をのぞけば多くは皆さんが経験してきた授業と大きな違いはありません。授業の前半では高校福祉科がどんなところかを概説します。「福祉科の目標と内容」は、該当する科目の学習指導要領を読んだうえで授業に臨んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	高等学校の新しい学習指導要領が 2022 年度から年次進行で実施されています。授業では学習指導要領や介護福祉士養成カリキュラムの改定の経過もふまえながら、新しい指導要領の要点について学びます。			
	アクティブ・ラーニングの内容 (1)自身が高校までに体験した福祉に関わる学習をふりかえり、高校生が福祉を学ぶ意義を考える、 (2)単元を選び指導案を作成する。作成した指導案を相互に検討・評価する。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割</li> <li>2 福祉人材問題と高校福祉科 一士・士法改正と学習指導要領改訂の経過</li> <li>3 青年期における「福祉の学び」 一私の福祉学習体験をふりかえる</li> <li>4 高等学校における福祉教育の全体像</li> <li>5 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (1) 社会福祉の理念と意義</li> <li>6 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (2) 私たちの生活と福祉の関わり</li> <li>7 福祉科の目標と内容 ②介護福祉基礎</li> <li>8 福祉科の目標と内容 ③コミュニケーション技術</li> <li>9 授業の構成と展開 (1) 指導案には何を書くか</li> <li>10 福祉科の目標と内容 ④介護過程</li> <li>11 授業の構成と展開 (2) 指導案の発表</li> <li>12 授業の構成と展開 (3) 指導案の検討</li> <li>13 福祉科の目標と内容 ⑤生活支援技術</li> <li>14 福祉科の目標と内容 ⑥こころとからだの理解</li> <li>15 福祉科の目標と内容 ⑦福祉情報/普通教科との連携</li> </ol>			
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示された箇所を読んでおく。 ・講義をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。			
成 績 評 価 方 法	指導案等の提出物 (30 点) および期末レポート (70 点)			

教科書 (購入必須)	文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 福祉編』海文堂出版、2019年
参考書 (購入任意)	藤田久美編著『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法』一藝社、2017年 保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002年

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ		
科 目 名 ( 英 語 )	Methods of Teaching Social Welfare Ⅱ	シラバスNo.	260050240
担 当 教 員 名	大坂 祐二		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	福祉科教育法Ⅰをふまえて社会福祉の理念、制度、支援技術等の効果的な指導方法について考察する。模擬授業やグループワークを通して具体的な授業を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
受 講 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、受講生の積極的な参加を求める。授業のふりかえりや模擬授業の指導案などの課題を課すので、期限までに提出すること。履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教科「福祉」は、介護実習をはじめとする体験的な学習など多様な方法で展開される。それらの方法について理解を深める。		
	アクティブ・ラーニングの内容 (1) 模擬授業を実施し、相互に検討・評価を行う。		
授・学習指導要領の該当箇所 ないし事前に指示された箇所 を読んでおく。 ・講義をふりかえり、要点や 考えたことをノートなどに まとめる。業の計画	1 教科「福祉」における授業とその方法 2 福祉科の目標と内容 ⑧介護実習 3 福祉科の目標と内容 ⑨介護総合演習 4 教材研究とは 5 教材研究から指導案へ 6 授業の展開と教材・教具（1）板書、ワークシートなど 7 授業の展開と教材・教具（2）ICTの活用、オンライン授業 8 教科「福祉」における評価 9 体験学習・ボランティア学習の指導 10 模擬授業（1） 11 模擬授業（2） 12 模擬授業（3） 13 模擬授業（4） 14 訪問・交流・行事の指導 15 教科「福祉」から福祉教育へ		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間		
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示された箇所を読んでおく。 ・講義をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。		
成 績 評 価 方 法	模擬授業の発表内容と提出課題（60 点）および期末レポート（40 点）		

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>文部科学省『高等学校指導要領（平成 30 年告示）解説 福祉編』海文堂出版、2019 年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>藤田久美編著『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法』一藝社、2017 年          保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年          大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年</p>

科 目 名	教育実習事前事後指導		
科 目 名 ( 英 語 )	Pre- and Post- Guidance for Teaching Practicum	シラバスNo.	260050250
担 当 教 員 名	小西 二郎・石川 貴彦		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	資格要件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	演習 教職(高公・高福)：必修		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	これまでの教職課程の学びを学校現場で実践するための準備を十分行い、生徒や教師から様々なことを吸収できる体制を作ることができる。また、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指すために自己課題を設定し、その達成状況について内省することができる。		
受 講 の 留 意 点	1～3年次まで開講された教職必修科目をすべて修得していることが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習に必要な事項を確認し、各自の実習課題を明確にすることを目的として、事前指導で実習の取り組み方や授業方法について学習する。また、受講者に模擬授業を課し、指導案の流れや発問、板書技術などを検討する。そして、教育実習で得られた経験や学び、自らの今後の課題を受講者間で共有することを目的として事後報告会を開催し、各発表を通じて実習課題の達成状況について意見交換を行う。		
	アクティブ・ラーニングの内容 事前指導では指導案作成、模擬授業を行い、事後指導では報告会での発表を行う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前指導：教育実習の目的と意義、自己課題の設定</li> <li>2 事前指導：教育実習の内容と準備</li> <li>3 事前指導：実習日誌の書き方</li> <li>4 事前指導：教育実習を見据えた模擬授業の実践・検討（1）</li> <li>5 事前指導：教育実習を見据えた模擬授業の実践・検討（2）</li> <li>6 事前指導：教育実習を見据えた模擬授業の実践・検討（3）</li> <li>7 事前指導：教育実習を見据えた模擬授業の実践・検討（4）※0.5 コマ分</li> <li>8 事後指導：教育実習後の意見交流（実習報告会）</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進める。 演習内容や担当教員からの指導を振り返り、教育実習に向けての準備を進める。		
成 績 評 価 方 法	事前指導における取組状況（25%）、指導案・教材作成・模擬授業（25%）、教育実習事後レポート（25%）、事後指導における実習報告（25%）		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	教育実習の手引き（第7版）、学術図書出版社、2019年 教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年		
参 考 書 ( 購 入 任 意 )			

科 目 名	教育実習				
科 目 名 ( 英 語 )	Teaching Practicum	シラバスNo.	260050260		
担 当 教 員 名	小西 二郎・大坂 祐二・石川 貴彦				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	高等学校の教育実習において、 ①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる。 ②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる。 ③実習全体を通じて自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりすることができる。				
受 講 の 留 意 点	1～3年次まで開講された教職必修科目をすべて修得していることが望ましい。 受入決定から実習期間終了までの間、実習校の指導教員等の指示にしたがうこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育現場の実際を学び、学級経営や授業などの教育実践ができる力を身に付けることを目的として、各学校の実習担当教諭の指導のもと、観察・参加・授業実習を中心に生徒指導および教科指導に関する内容を実践する。 アクティブ・ラーニングの内容 学級担任、教科指導などを中心に、実習生が主体的に活動に取り組む。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、校長、教頭等からの講話 2 授業観察、教材研究、生徒指導① 3 授業観察、教材研究、生徒指導② 4 授業観察、教材研究、生徒指導③ 5 学級運営、授業参加、授業研究① 6 学級運営、授業参加、授業研究② 7 学級運営、授業参加、授業研究③ 8 学級運営、授業参加、授業研究④ 9 授業実習、行事等の参加① 10 授業実習、行事等の参加② 11 授業実習、行事等の参加③ 12 授業実習、行事等の参加④ 13 授業実習、行事等の参加⑤ 14 プレ研究授業 15 研究授業、合評会				
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 ( 2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 実習校と事前に連絡をとり、授業範囲に関する知識を身につけておく。 時事や身近な話題に関心を持ち、生徒と円滑なコミュニケーションを図れる準備をしておく。				
成 績 評 価 方 法	教育実習日誌に付随する教育実習評価表で示した、学習指導、生活指導、実習態度の観点別評価 (100%)				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて各自準備しておくこと。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	教職実践演習（高）		
科 目 名（英 語）	Practical Seminar on Secondary Schools Teacher Preparation	シラバスNo.	260050270
担 当 教 員 名	大坂 祐二・石川 貴彦・小西 二郎		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	資格要件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	演習		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	教職（高公・高福）：必修		
学 修 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質・能力の全体について、確実に身につけさせるとともに、その資質・能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。		
受 講 の 留 意 点	教育実習などの振りかえりを活かして進める。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。		
	アクティブ・ラーニングの内容 ○ミニレポートに対する応答、模擬授業		
授 業 の 計 画	1 教職論 教員の職務内容について振り返る 2 教職論 授業、教員の姿勢 3 教職論 生徒指導の現局面 4 教科指導 教材研究と指導案① 5 教科指導 教材研究と指導案② 6 教科指導 授業研究・模擬授業① 7 教科指導 授業研究・模擬授業② 8 生徒指導 ケース・スタディ① 9 生徒指導 ケース・スタディ② 10 学校経営 校務分掌と教職員の協働 11 学級経営 学級づくりの実践 12 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由 13 社会性・対人関係 保護者・地域との連携 14 生徒指導 ケース・スタディ③ 15 教職論 教員の使命・責任		
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 各担当教員の指示による。		
成 績 評 価 方 法	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。		
参 考 書 (購 入 任 意)	各項目に応じて、適宜指示する。		

科目名	知的障害心理・生理・病理			
科目名（英語）	Psychology, Physiology, and Pathology for Children with Intellectual Disability	シラバスNo.	260050280	
担当教員名	真名瀬 陽平			
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態 講義
開講時期	後期	必修選択		資格要件 教職（特支）：必修
実務経験及びそれに関わる授業内容				
各学科の対応するディプロマ・ポリシー				
学修到達目標	知的障害における概要を理解し、そのうえで、アセスメントや実際の支援・指導について理解することを目標とする。具体的には、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴、それらの相互作用について理解する。加えて、生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性や、家庭や関係機関と連携した指導・支援について理解する。			
受講の留意点	本科目は、特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義です。そのため、特別支援教育、特に学校現場をイメージしながら積極的に学んでください。			
授業の概要とアクティブ・ラーニングの内容	<p>知的障害における医学的診断や基準、カテゴリーについて理解をしたのち、適応行動・知的能力についてアセスメント方法を学びつつ、知的障害の知的能力・適応行動・認知の特性について理解を深めていきます。その後、家庭・医療機関など関係機関と連携することの重要性を学び、学校・家庭・社会において知的障害者が抱えやすい困難さとそれに対する指導・支援について、事例を交えた学習を行います。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小レポートや小テストなどを課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、講義内容に応じて個人発表やロールプレイ、グループワークなどを実施します。</p>			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 知的障害とは（AAIDD、DSM-5-TR、文部科学省）</li> <li>2 知的障害の発生要因と特徴（1） 病理型知的障害</li> <li>3 知的障害の発生要因と特徴（2） 生理型知的障害、心理・社会型知的障害</li> <li>4 知的障害の発生要因と特徴（3） AAIDD による包括的な枠組みに基づく相互作用の理解</li> <li>5 適応行動のアセスメント（1） Vineland- II の概要</li> <li>6 適応行動のアセスメント（2） Vineland- II の結果と解釈</li> <li>7 適応行動のアセスメント（3） S-M 社会生活能力検査第3版の概要、結果と解釈</li> <li>8 知的能力のアセスメント（1） 田中ビネーVの概要</li> <li>9 知的能力のアセスメント（2） 田中ビネーVの結果と解釈</li> <li>10 知的能力のアセスメント（3） WISC-5 の概要、結果と解釈</li> <li>11 家庭・医療機関と連携した支援・指導の必要性と在り方</li> <li>12 学校における知的障害のある生徒の学習面における困難さと指導・支援</li> <li>13 学校における知的障害のある生徒の生活面における困難さと指導・支援</li> <li>14 家庭における知的障害のある生徒への困難さと指導・支援</li> <li>15 社会における知的障害者の心理的支援</li> </ol>			
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 毎時間の授業において、次回の講義の内容について予告をします。その内容についてインターネットや書籍を利用して調べ、要点をまとめたり、疑問をもつことを予習とします。また、復習として、小テストや小レポートなどの課題を課しますので、必ず期日までに取り組んでください。</p>			
成績評価方法	毎回の授業において課される課題（50%）、定期試験（50%）で評価します。			

教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。
参考書 (購入任意)	知的障害児の心理・生理・病理[第2版]:エビデンスに基づく特別支援教育のために(勝二博亮編著、北大路出版)

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理			
科 目 名 ( 英 語 )	Psychology, Physiology, and Pathology of Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	260050290	
担 当 教 員 名	高橋 和明、田中 肇			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由(運動障害)の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴を理解し、配慮や留意すべき内容等について説明できる。</li> <li>・人間の身体の仕組み、定型発達(運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等)を理解し、肢体不自由(運動障害)がある場合の障害特性が説明できる。</li> <li>・肢体不自由(運動障害)の子どもがいる家族の支援や医療機関との連携の大切さについて理解し、説明できる。</li> </ul>			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。医療分野の内容も含まれますが、肢体不自由教育に携わる上で必要な基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>人間の身体の仕組み、乳幼児の定型発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援、関係機関の連携等について学習します。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う</p>			
授 業 の 計 画	<p>オリエンテーション / 肢体不自由の定義・原因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます / 「肢体不自由」という用語の成立と「肢体不自由」の原因についてについて学習します</li> <li>2 姿勢と運動に関する身体の仕組み ①骨や関節の働き、②筋肉の種類と特徴、③神経系の構造と働き、④骨格及び筋肉、神経系と肢体不自由の関係等、人間の身体の基本的な仕組みについて学習します</li> <li>3 姿勢と運動発達 発達の捉え方や乳幼児の運動発達の特徴について理解を図るとともに、肢体不自由の障害特性を理解するための反射と姿勢の発達について学習します</li> <li>4 脳性まひの原因と病型 脳性まひの原因や病型による脳性まひの分類(痙直型・不随意運動(アテトーゼ)型・失調型・混合型)、各分類別の特徴など、脳性まひ児の障害特性について学習します。</li> <li>5 脳性まひ児の運動発達の特徴 臥位姿勢から体をタテに起こして歩行を獲得するまで、乳幼児の運動発達の全体像を学びながら、脳性まひの運動発達の特徴について理解を図ります。</li> <li>6 重度脳性まひ児の障害の理解 重度脳性まひ児の障害状況について学び、学校教育における発達を促す姿勢づくり(ポジショニング)の重要性や重度脳性まひ児の指導・支援のポイントについて理解を図ります。</li> <li>7 肢体不自由児の心理特性 知的発達(知能)やパーソナリティ、経験・体験不足の影響、養育態度の影響等から、非脳損傷性と脳損傷性の肢体不自由児に分けて、その心理面の特性について学習します。</li> <li>8 脳性まひ児の知覚・認知特性 子どもの発達における感覚・知覚・認知の発達と運動発達との関連について理解を図り、肢体不自由が認知発達に及ぼす影響や脳性まひ児にみられる認知の障害、認知面に種々の困難がある児童生徒への支援内容等について学びます。</li> <li>9 肢体不自由児の社会性の発達の特性</li> </ol>			

	<p>円滑な対人関係や集団の中で適切に行動できる力を社会性とおさえ、乳幼児期の社会性の発達を概観しながら肢体不自由児の社会性の発達を考えるときの問題を明らかにし、肢体不自由児の社会性の発達の阻害要因や肢体不自由児の社会性の発達特性を踏まえた支援の在り方等について学びます。</p> <p>10 二分脊椎と筋ジストロフィーの理解と支援 二分脊椎と筋ジストロフィーの病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>11 肢体不自由児の摂食障害の理解 食べる機能(摂食嚥下)の仕組みとその発達の過程を概観し、重度脳性まひ児の食事時にみられる摂食嚥下障害と学校における摂食指導の教育課程上の位置づけと指導の実際を学びます。</p> <p>12 手足の先天奇形・関節拘縮症、ペルテス病・骨系統疾患の理解と支援 手足の先天奇形・関節拘縮症及びペルテス病・骨系統疾患の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>13 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解と支援 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>14 学校における医療的ケアの基本的な考え方と具体的な対応 特別支援学校(肢体不自由教育)では医療的ケアを実施している児童生徒が多数在籍していることから、本講では学校で医療的ケアが実施されるようになった経緯や学校における医療的ケアの実際、医療的ケアの教育的意義等について学習します。</p> <p>15 肢体不自由児の発達検査 肢体不自由児の実態把握の方法として用いられる行動観察や保護者面談、心理検査を実施する際の留意点について学ぶとともに、実際に肢体不自由のある児童生徒にも適用できる簡便な発達検査を取り上げ、検査結果の処理や活用の仕方について演習をします。</p>
授業時間外学修(予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：参考文献や学習指導要領等で、シラバスで予定されている授業内容を確認しておくとともに、関心を持った話題については各種文献やネットで調べておくこと。 復習：配付資料や学習指導要領、講義中に出題した課題、講義メモなどから授業内容を振り返り、ノートを整理することや授業で取り上げられたキーセンテンスやキーワードについて参考文献やネットで調べて理解を深めること。</p>
成績評価方法	提示課題の取組状況(30点)、振り返りレポート(30点)、課題レポート(40点)として総合的に評価します。
教科書(購入必須)	「肢体不自由児の医療・療育・教育」(篠田達明 監修、沖高司・岡川敏郎・土橋圭子 編集、金芳堂)
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児の教育〔新訂〕(川間健之助 長沼俊夫 著, NHK 出版)</li> <li>・「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ IV肢体不自由 PP143～171」 R3.10 文部科学省 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00004.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00004.htm</a></li> <li>・社会福祉法人 日本肢体不自由児協会ホームページ <a href="https://www.nishikyo.or.jp/">https://www.nishikyo.or.jp/</a> 「肢体不自由児の父 療育の父 高木憲次」(動画 30:00)</li> <li>・「よくわかる肢体不自由教育」 安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房</li> <li>・「肢体不自由教育の理念と実践」 筑波大学付属桐ヶ丘特別支援学校 ジアース教育新社</li> <li>・「障害児の発達とポジショニング指導」(高橋純・藤田和弘編集 ぶどう社)</li> <li>・「新版 重症心身障害療育マニュアル」 江草安彦監修, 医歯薬出版株式会社</li> </ul>

科 目 名	病弱心理・生理・病理		
科 目 名 ( 英 語 )	Psychology, physiology, and pathology of people with illness	シラバスNo.	260050300
担 当 教 員 名	下村 遼太郎・高橋 和明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	資格要件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもへの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>		
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。病弱・身体虚弱教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもへの支援で大切にすべきことについて考えていきます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行うとともに、病弱・身体虚弱の児童生徒への支援をテーマに、KJ法を取り入れてグループディスカッション・グループワークを行う授業を設定している。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション /健康、病気、子どもが病気になったとき (高橋担当) 授業の進め方、授業内容、評価方法等についてガイダンスをします。/「病気」「健康」の概念や子どもの病理解の発達について学び、その発達段階を踏まえた慢性疾患の子どもへの支援について考えます。</li> <li>2 病気、障害のある子どもへの合理的配慮 (高橋担当) 「国際障害分類 (ICIDH)」から「国際機能分類 (ICF)」へ、「障害」の捉え方や考え方の変遷について理解を図り、病弱・身体虚弱の子どもへの「合理的配慮」とICFを用いた子どもへの支援について学習します。</li> <li>3 病気が及ぼす心的な影響Ⅰ～慢性疾患による心理的影響 (高橋担当) 病気の子ども「心に寄り添う」ということと、病気(慢性疾患)が及ぼす心理的影響について考え、病気の子どもへの気持ちの理解や心のケア、プライバシーの保護など慢性疾患の子どもに対する支援のポイントを学習します。</li> <li>4 病気が及ぼす心的な影響Ⅱ～病気・障害の受容とセルフケア (高橋担当) 「病気」、「障害」の受容がセルフケアの大前提であり、その上で発達段階に即してセルフケアの諸能力が獲得されていくことを学び、セルフケアの力を育む自立活動の指導や慢性疾患の子どもにセルフケアの力を育む支援について学習します。</li> <li>5 家庭・医療・教育の連携～家族への支援、医療と教育の連携～ (高橋担当) 重大な病気や障害があると診断された親の心理、保護者と関わる際の心構えや態度、関係づくり、保護者を支援する際の配慮点について学ぶとともに、医療と教育の連携のポイント、病氣療養児の学びを保障するための迅速な手続きと学校間の連携について学習します。</li> <li>6 病弱者の支援で大切なこと (1) ～グループワーク (高橋担当) グループディスカッション・グループワークを通して、病氣療養児の教育と支援で大切にしていきたいことを考えます。</li> <li>7 病弱者の支援で大切なこと (2) ～グループワークの成果発表/まとめ (高橋担当) グループワークの成果を発表し合いグループワークのまとめするとともに、病院に入院している子どもたちの動画を視聴し、病氣療養児の支援の在り方を考えます。</li> </ol>		

	<p>8 病気、障害のある子どもの心理的特徴と心理的支援・配慮の在り方（高橋担当）        病気や障害のある子どもの心理的特徴と病気が及ぼす様々な不安・ストレスについて整理し、病気や前籍校、学習に関する不安への対応や「心の病気」への対応等、病気の子どもの指導に当たって大切なことを学びます。</p> <p>9 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等）（下村担当）        小児期のぜんそく・アレルギー等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>10 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等）（下村担当）        小児期の腎臓病、心臓病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>11 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等）（下村担当）        小児期の糖尿病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>12 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等）（下村担当）        小児の悪性腫瘍の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>13 進行性筋ジストロフィー（下村担当）        小児期の筋ジストロフィー患者の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>14 てんかん、血友病、その他の疾患（下村担当）        小児期のてんかん、血友病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>15 心身症・精神疾患（下村担当）        小児期の心身症、精神疾患の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：シラバスを参考に病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図ってください。 復習：授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組んでください。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図ってください。
成 績 評 価 方 法	下村授業担当分 50 点(定期試験)、高橋担当授業分 50 点(小課題とグループワークによる演習課題 18 点 課題レポート 32 点)として、2 名の教員の総合点(満点は 100 点)によって評価します。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・「特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理」（小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一 編著、ミネルヴァ書房） ・「病気がみえる vol.15 小児科」（医療情報科学研究所 編、メディックメディア） ・「イラストを見せながら説明する 子どもの病気とその診かた」（金子堅一郎 編、南山堂） ・「特別支援教育免許シリーズ 健康面への困難への対応」（花熊 暁・苅田知則・笠井新一郎監修 健皇社） ・「チームで育む病気の子ども 改訂版 新しい病弱教育の理論と実践」（西牧謙吾・松浦俊弥、北樹出版） ・「標準 病弱児の教育」（テキスト、日本療育学会、ジアース教育新書） ・「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」（宮本信也・土橋圭子、金芳堂） ・「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省 ジアース教育新社) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</a>

科 目 名	障害児教育課程論		
科 目 名 ( 英 語 )	Curriculum for handicapped child	シラバスNo.	260050310
担 当 教 員 名	坂内 仁		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	資格要件 教職(特支): 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、教育課程や学習指導要領の重要性について、経験に基づく具体的な内容を盛り込み、理解を深めることができる。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	児童生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校の教育実践において、各学部間で系統性と一貫性がある教育課程の編成について理解することができる。知的障害教育における授業づくりの基本を理解することができる。		
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害に関する学びと関連付けながら、教育課程に関する理解を深めていくことが望ましい。講義内容については、特別支援学校学習指導要領解説で確認すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	「特殊教育」から「特別支援教育」に至る過程を理解した上で、今後の展望を見通し、特別支援教育の理念を十分に理解しながら、知的障害の障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と作成の際の留意点等について理解する。知的障害の特性を理解し、授業づくりの基本について学ぶ。特別支援学校の見学を通して、特別支援教育の現状を理解する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害の特性</li> <li>2 知的障害教育の特色</li> <li>3 知的障害教育の教育課程</li> <li>4 教育課程と個別の指導計画</li> <li>5 障害のある子どもの学びの場</li> <li>6 学習指導要領改訂の変遷と意義</li> <li>7 教科別の指導</li> <li>8 各教科等を合わせた指導</li> <li>9 自立活動の指導</li> <li>10 知的障害教育における授業づくり①</li> <li>11 知的障害教育における授業づくり②</li> <li>12 見学予定の特別支援学校の特色と教育課程</li> <li>13 特別支援学校の見学①（小中高等部設置校）</li> <li>14 特別支援学校の見学②（高等部単独設置校）</li> <li>15 見学のまとめ</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間		
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：配布資料を事前に確認しておくこと。 復習：学んだことが日常の生活とどのように関連しているかについて考える。		
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパーの記述内容（30 点）、レポート（70 点）で評価する。		

教科書 (購入必須)	文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部) 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編 (高等部) 上・下 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	肢体不自由者教育課程論			
科 目 名 ( 英 語 )	Curriculum Theory for Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	260050320	
担 当 教 員 名	西垣 昌欣			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校(肢体不自由)での勤務経験を有する者が授業を担当します。授業で学ぶ内容は、特別支援学校において編成される教育課程の意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメント等です。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由の障害の状態や特性、心身の発達段階、学習の進捗を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。</li> <li>・各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児児童生徒の実態に応じて適切に指導するための個別の指導計画を作成することを理解している。</li> <li>・自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解している。</li> <li>・教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解している。</li> <li>・個別の指導計画の実施状況の評価の改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。</li> </ul>			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目です。複数の教科書を使用しますが、持ち運びが大変になるため、どの教科書を使用するか事前に連絡します。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学習指導要領等の規定を確認しながら、肢体不自由のある児童生徒一人一人の実態に応じた指導を行うための教育課程について学ぶ授業となります。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ペアやグループでの意見交換を交えて進めます。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方 肢体不自由教育の現状と課題及び授業の進め方について説明します。</li> <li>2 肢体不自由教育の歴史と制度 欧米における肢体不自由教育及び我が国における肢体不自由教育の歴史と制度を学びます。</li> <li>3 我が国における戦後の養護学校の整備と義務化 養護学校の整備と義務化、障害の重度・重複化への対応について学びます。</li> <li>4 肢体不自由の理解 肢体不自由の姿勢・運動の障害、感覚・認知の障害、言語・コミュニケーションの障害について振り返ります。</li> <li>5 特別支援教育(肢体不自由)における教育課程の編成の考え方 学習指導要領等の規定を確認しながら、教育課程の編成の考え方を学びます。</li> <li>6 特別支援教育(肢体不自由)における教育課程の編成の実際 特別支援学校(肢体不自由)で編成されている教育課程の例を複数取り上げ、教育課程編成の実際を学びます。</li> <li>7 個別の指導計画と授業設計① 個別の指導計画に基づく教科の授業設計及び年間指導計画について学びます。</li> <li>8 個別の指導計画と授業設計② 個別の指導計画に基づく自立活動の授業設計と年間指導計画について学びます。</li> <li>9 特別支援学校(肢体不自由)のカリキュラム・マネジメント 複数の教育課程を編成する特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの取組例を参考に、カリキュラム・マネジメントの実際を学びます。</li> <li>10 小・中学校における肢体不自由教育の現状と教育課程の編成 通常の学級及び特別支援学級にそれぞれ在籍する肢体不自由のある児童生徒の実態と編成される教育課程について学びます。</li> <li>11 就学前の療育・保育・教育、進路指導・就労支援 就学前の肢体不自由のある幼児への支援、また高等部卒業を控えた肢体不自由のある生徒への進路指導・就学支援の実際について学びます。</li> </ol>			

	<p>12 障害と医療及び福祉、家族への対応          肢体不自由のある児童生徒を取り巻く医療及び福祉との連携、家族への対応について学びます。</p> <p>13 教師の新たな専門性としての協働モデルの構築          特別支援教育における関係者間の連携と学校組織における協働の意義等について学びます。</p> <p>14 インクルーシブ教育システムと特別支援学校（肢体不自由）の使命          肢体不自由教育に関わる教師の専門性、教員養成、現職研修などの現状や課題について考えます。</p> <p>15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性          授業全体を振り返り、肢体不自由教育における専門性について、自分の考えをまとめます。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書の関連箇所を読み、質問したい事柄をまとめておいてください。 復習：講義の内容や自分の気付きをノート等に整理するようにしてください。課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
成 績 評 価 方 法	授業への出席とリアクションペーパーの記述内容(50 点)、課題レポート(50 点)を総合して評価します。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)』 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』 『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)』 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)』
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・一木 薫編著『特別支援教育をつなぐ Connect & Connect② 肢体不自由教育』（2024 年、北大路書房）

科 目 名	肢体不自由教育演習			
科 目 名 ( 英 語 )	Practice of Teaching the Orthopedically Impaired	シラバスNo.	260050330	
担 当 教 員 名	西垣 昌欣			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職 (特支) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校 (肢体不自由) において勤務経験がある者が授業を担当します。授業で取り扱う内容は、肢体不自由のある児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業計画を行う方法、指導の工夫の仕方等を身につけるための演習です。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、思考力、判断力、表現力等の育成に必要となる体験的な活動を通して基礎的な概念の形成を的確に図ることについて理解している。</li> <li>・ 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等を効果的に学習するために必要となる姿勢や認知の特性に応じて指導を工夫することについて理解している。</li> <li>・ 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、指導の効果を高めるために必要となる身体の動きや意思の表出の状態に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫することや、ICT及び教材・教具を活用することについて理解している。</li> <li>・ 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成できるとともに、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ul>			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目です。教職員として学校で勤務することを想定した演習中心の授業となりますので、受講生の主体的・対話的な取組を求めます。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>肢体不自由のある児童生徒を実際に指導することを想定した個別の指導計画の作成及び授業設計、模擬授業等を、演習を交えて学びます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 児童生徒の実態把握や課題整理は、カード整理法を用いたグループ演習となります。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方 特別支援学校 (肢体不自由) での協働的勤務の実際と授業の進め方について説明します。</li> <li>2 個々の実態に応じた授業設計の考え方 教育課程を復習した上で、個別の指導計画に基づく授業設計の考え方を、各教科及び自立活動のそれぞれについて学びます。</li> <li>3 各教科の指導において必要な配慮事項 肢体不自由のある児童生徒の学習上の困難、教科指導における配慮事項、指導の工夫・補助具等の活用について学びます。</li> <li>4 肢体不自由のある児童生徒の実態把握と課題の整理① 肢体不自由のある児童生徒の事例を基に、個別の指導計画を実際に作成します。</li> <li>5 肢体不自由のある児童生徒の実態把握と課題の整理② 肢体不自由のある児童生徒の事例を基に、個別の指導計画を実際に作成します。</li> <li>6 個々の実態に応じた各教科の授業設計 肢体不自由のある児童生徒の事例を基に、小学校教科の単元計画及び評価規準等を実際に作成します。</li> <li>7 肢体不自由のある児童生徒への指導① 教科の指導案 (略案) を作成し、授業準備を行います。</li> <li>8 肢体不自由のある児童生徒への指導② 教科の模擬授業を行い、授業についての意見交換、授業改善の提案等を行います。</li> <li>9 個々の実態に応じた自立活動の授業設計 肢体不自由のある児童生徒を事例に、自立活動の個別の指導計画を作成します。</li> <li>10 肢体不自由のある児童生徒への指導③ 自立活動の時間における指導の指導案 (略案) を作成し、授業準備を行います。</li> <li>11 肢体不自由のある児童生徒への指導④ 自立活動の時間における指導の模擬授業を行い、授業についての意見交換、授業改善の提案等</li> </ol>			

	<p>を行います。</p> <p>12 知的障害を併せ有する肢体不自由のある児童生徒への指導① 特別支援学校（知的障害）の教科に代替して行う授業の指導案（略案）を作成し、授業準備を行います。</p> <p>13 知的障害を併せ有する肢体不自由のある児童生徒への指導② 特別支援学校（知的障害）の教科に代替して行う模擬授業を行い、授業についての意見交換、授業改善の提案等を行います。</p> <p>14 肢体不自由のある児童生徒の学びの支え 学校における医療的ケア及び摂食指導、身体介助について学びます。</p> <p>15 まとめ 全授業を振り返り、まとめを行います。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書の該当箇所に通し、予め質問したいことをまとめておいてください。模擬授業の準備に必要な物も、可能な限り予め考え、準備しておいてください。 復習：講義の内容や自分の気づきをノート等に整理するようにしてください。課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>リアクションペーパーの記述内容(20 点)、個別の指導計画(20 点)、指導案(15 点×3)、模擬授業・意見交換(15 点)を総合して評価します。</p>
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一木 薫編著『特別支援教育をつなぐ Connect &amp; Connect② 肢体不自由教育』（2024 年、北大路書房）</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)</li> </ul>
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>*授業内で適宜紹介します。</p>

科 目 名	病弱教育学			
科 目 名 ( 英 語 )	Education of people with illnesses	シラバスNo.	260050340	
担 当 教 員 名	高橋 和明			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道内の特別支援学校や教育行政機関で37年間肢体不自由教育及び病弱教育に携わってきた経験を生かし、インクルーシブ教育システム下における病弱教育に必要な基礎的・基本的事項を身に付けることを目的に、具体的な事例等を取り上げて、多様なニーズを有する病弱・身体虚弱の児童生徒の理解と授業づくりのための指導内容・方法・評価について解説する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー				
学 修 到 達 目 標	病弱教育の歴史と意義について理解し、病弱教育の特徴について学校教育の制度や教育課程を中心に概要を把握し説明できる。 病弱・身体虚弱児の教育的ニーズを理解するとともに、病気等の状態等に応じた教育内容・方法に関する基本的事項や配慮事項、自立活動の指導との関連を理解し、病弱教育に求められる専門性について自分なりの考えをまとめ説明することができる。			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害(知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等)の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義と現代的課題を考えるとともに、病弱・身体虚弱児の教育的ニーズや学びの場、教育課程の特徴を理解する。また、病弱教育の対象である主な疾患の特徴を知り、病類に応じた教育の在り方や配慮事項、自立活動との関連について理解し、特別支援学校(病弱)の教員としての自覚や意欲を養う。さらに、実際の事例等に基づいて病気療養児の心理や支援方法、家庭や医療機関との連携について学び、病弱教育における専門性を考える。</p> <p>病弱教育における基礎的・基本的事項や留意事項について、写真や図解、実践例、動画を取り入れたPowerPoint教材を使用するとともに、受講生の主体的な学びを促し、学修したことの振り返りと定着を図るためワークシート形式の講義資料を取り入れて授業を展開する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 病弱・身体虚弱の児童生徒への支援をテーマに種々の事例を取り入れ、特別支援学校(病弱)の教員としての自覚や態度について考え、意見交換する授業を設定している。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション 授業の進め方、病弱教育の意義と目的 授業の目標や授業計画、授業の進め方等についてガイダンスします。 病気の捉え方、概念について整理し理解を図るとともに、病弱教育の意義と目的を考えます。</li> <li>2 病弱教育の歴史の変遷と現状 歴史的視点から見た病弱教育を概観するとともに、統計データを通して病気の子どもの現状について理解を図ります。</li> <li>3 病弱・身体虚弱の子どもの関係法令と学びの場、教育課程の整備 特別支援教育に関する法令と病弱教育の学びの場(特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級)や教育課程について学び、法令に基づいて病気の種類や教育条件によって多様な学びの場があること、通常の学級に就学している児童生徒に対する合理的配慮について理解を図ります。</li> <li>4 病弱・身体虚弱の子どもの教育目標と教育課程 特別支援学校の教育課程を編成・実施する上で必要な法令・法規、学習指導要領の概要について学び、児童生徒の障害や病気の状態に応じた教育課程の取り扱いについて理解を図ります。</li> <li>5 病弱教育における自立活動の指導 自立活動は教育課程における障害に対応した指導領域であり、特別支援教育と通常の教育の特徴の違いを代表する最も重要な専門性であることを学び、病弱教育における自立活動の具体的な指導課題(目標・内容)や個別の指導計画作成の仕方等について理解を図ります。</li> <li>6 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、アレルギー疾患 呼吸器疾患、アレルギー疾患の概要を学び、呼吸器疾患、アレルギー疾患の子どもの指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</li> <li>7 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 糖尿病、肥満症 糖尿病と肥満症の概要を学び、糖尿病の子ども、肥満症の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</li> </ol>			

	<p>8 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 腎疾患、心疾患 腎疾患、心疾患の概要を学び、腎疾患、心疾患の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>9 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 神経・筋疾患 進行性筋ジストロフィーなど神経・筋疾患の概要を学び、神経・筋疾患の子どもに対する指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>10 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(5) 重症心身障害・てんかん 重症心身障害の子どもの障害の特性を学び、指導上の留意点や健康観察・健康管理のポイントについて理解を図るとともに、合併症としてのてんかん発作の種類等を学び、発作時の対応や指導上の配慮点について理解を図ります。</p> <p>11 病弱教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(6) 悪性新生物・ターミナル期の子ども 急性白血病を中心に小児がん(悪性新生物)の概要を学び、小児がんの子どもの指導上の配慮事項や自立活動の指導との関連について理解を図ります。</p> <p>12 ターミナル期にある子どもの教育の実際～白血病の少女の闘病記録～ 急性白血病の子どもの事例を通して、ターミナル期の子どもに対する支援の在り方について理解を深め、病弱教育に携わる教師に求められる専門性について自身の考えをまとめます。</p> <p>13 特別支援学校(病弱教育)の新たな対象～心身症・精神疾患～ 「心の病気」と言われる心身症や精神疾患の概要を学び、心身症・精神疾患の子どもの指導・支援の在り方について理解を図ります。</p> <p>14 拡大する病弱教育の対象 ～不登校、虐待～ 児童虐待や不登校の現状について理解を図り、虐待を受けた子どもや不登校の児童生徒の背景にある問題や教育的対応について考えます。</p> <p>15 病気の状態に応じた指導の工夫と現代的課題 病気や障害の状態を踏まえた各教科等の配慮事項について理解を図るとともに、特別支援教育への制度改正に伴う課題や教育の情報化、多職種連携によるチームアプローチなど、病弱教育の現代的課題と病弱教育に携わる上での心構えについて考えます。</p>
授業時間外学修(予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：参考文献や学習指導要領等で、シラバスで予定されている授業内容を確認しておくとともに、関心を持った話題については各種文献やネットで調べておくこと。 復習：配付資料や学習指導要領、講義中に出題した課題、講義メモなどから授業内容を振り返り、ノートを整理することや授業で取り上げられたキーセンテンスやキーワードについて参考文献やネットで調べて理解を深めること。</p>
成績評価方法	<p>学期末のレポートの提出と毎時間の履修状況(授業の中で実施する小課題・感想文やグループワークの成果物の提出)に基づいて総合的に評価する。評価点の配分割合は、学期末レポート 60%、毎時間の履修状況 40%。大学の履修規定に基づいて評価する。</p>
教科書(購入必須)	<p>毎時間授業のレジюмеと資料を配付する。</p>
参考書(購入任意)	<p>文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂出版 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部、小学部、中学部)』開隆堂出版 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引』ジアース教育新書 全国病弱教育研究会『病気の子どもの教育入門』クリエイツかもがわ 山本昌邦・島治伸・滝川国芳『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社 標準宮本信也・土橋圭子『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』金剛堂 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所『病気の子どもの教育支援ガイド』ジアース教育新社 全国特別支援学校病弱教育校長会『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』ジアース教育新社</p>

科 目 名	視覚障害教育総論			シラバスNo.	260050350
科 目 名 ( 英 語 )				シラバスNo.	260050350
担 当 教 員 名	外山 正一				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対 応 す る ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに、視覚に障害がある児童生徒の自立と社会参加に向け、特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。</li> <li>2. 特別支援教育における視覚障害の状況を理解し、近代視覚障害教育の成立から現在までの視覚障害教育変遷の過程を説明できる。</li> <li>3. 特別支援教育の制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴について説明できる。</li> <li>4. 学習指導要領の概要を理解し、視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。</li> </ol>				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>視覚障害教育について理解を深め、指導内容や方法等を習得するために、以下の内容について学習を進めていく。特に点字や白杖体験、実物教材等を活用し実践的な内容を学んでいく。1. 視覚障害の概要及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 (体験的な学習の実施) ○白杖を使った歩行訓練 ○点字器を利用した点字の読み書き</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別支援教育における視覚障害教育 特別支援教育の概要 特別支援学校(視覚)及び特別支援学級の概要 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学と合理的配慮 特別支援教育への転換と北海道の視覚障害教育</li> <li>2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾唖学校令 聾学校及び養護学校の義務制実施</li> <li>3 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮</li> <li>4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校(視覚)における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画と教育支援計画</li> <li>5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ(盲児の指導) 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項</li> <li>6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ(弱視児の指導) 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 使用文字と弱視レンズの選定 LD児と視覚認知</li> <li>7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録</li> <li>8 視覚障害教育における自立活動</li> </ol>				

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 適宜指示する。 復習 (90 分) 適宜指示する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>提示課題の取り組み状況 (30%)、期末レポート (70%)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>「新・視覚障害教育入門」(青柳まゆみ 鳥山由子 編著、ジアース教育新社)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	聴覚障害教育総論		
科 目 名 ( 英 語 )	Introduction to special needs education for hearing disability	シラバスNo.	260050360
担 当 教 員 名	庄司 和史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、障害が及ぼす困難を改善・克服するための自立活動の展開、保育や教科指導等における実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。		
	アクティブ・ラーニングの内容：難聴が及ぼすコミュニケーションの障がいに関する疑似体験活動を実施し、グループでディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要の説明 聴覚障害の定義（医学モデル、社会モデルの理解）、事前課題の提出の確認と解説</li> <li>2 音声学、聴覚の構造及び機能 音とは何か、聴覚障害の生理学及び病理学的理解</li> <li>3 心理特性及び発達 聴覚障害が及ぼす言語・コミュニケーションの発達への影響、疑似体験を通じた理解</li> <li>4 障害の早期発見と早期療育 新生児聴覚スクリーニングのシステム、医療等との連携、補聴器・人工内耳の装用支援と評価</li> <li>5 教育課程の編成と指導法① 障害教育におけるカリキュラムマネジメント、聴覚障害の特性に応じた各領域、各教科の指導</li> <li>6 教育課程の編成と指導法② 聴覚障害教育における自立活動、個別の指導計画、発語発音指導、聴覚学習、専門性及び個別の指導計画</li> <li>7 指導の実際① 各発達段階における指導、乳幼児段階からの支援、保護者支援</li> <li>8 指導の実際② 学習指導案・保育計画案の作成方法、まとめ</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】  予習：事前に配布する予習用資料を読み、障害の医学モデルと社会モデルのとらえ方を難聴と関連付けて考え、事前課題に取り組む（授業当日に課題提出する）  復習：授業計画の各項目で示した課題について、配布した資料等を参照しながら授業内容の理解を深め、最終課題（レポート作成）へ取り組む。</p>		
成 績 評 価 方 法	講義における小レポート（20 点）、提示課題の取り組み状況（20 点）、レポート課題（60 点）により評価する。		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	授業の2週間前に予習用資料を配布します。 授業全体の資料は当日配布します。		
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021		

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		
科 目 名 ( 英 語 )	Education for handicapped children teaching practice Pre-post guidance	シラバスNo.	260050370
担 当 教 員 名	西垣 昌欣・坂内 仁・真名瀬 陽平		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験のある教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	障害児教育実習は、特別支援学校において障害のある児童生徒への指導を行う重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、児童生徒の障害についての確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。		
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク実習や高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	事前指導では、学習指導案を参照しながら過去の障害児教育実習の動画を視聴して、授業についての協議を行い、学習指導案の作成方法について学ぶ。事後指導では、自分自身の研究授業の動画を視聴し、課題点等を協議する。実習報告会では、実習の概要や課題、感想等について発表する。 アクティブ・ラーニングの内容 視聴した授業について、児童生徒への働きかけの工夫や課題点などに関して協議することで、授業研究の在り方を理解する。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（事前指導）</li> <li>2 教育実習に向けた準備（事前指導）</li> <li>3 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う①（事前指導）</li> <li>4 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う②（事前指導）</li> <li>5 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う③（事前指導）</li> <li>6 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う④（事前指導）</li> <li>7 障害児教育実習における学習指導案の作成（事前指導）</li> <li>8 障害児教育実習における学習指導案の議論・改善（事前指導）</li> <li>9 障害児教育実習に向けた準備（心構え・教育実習日誌・目標）（事前指導）</li> <li>10 障害児教育実習の振り返り①（事後指導）</li> <li>11 障害児教育実習の振り返り②（事後指導）</li> <li>12 障害児教育実習の振り返り③（事後指導）</li> <li>13 障害児教育実習の振り返り④（事後指導）</li> <li>14 障害児教育実習の振り返り⑤（事後指導）</li> <li>15 障害児教育実習報告会における報告と議論（事後指導）</li> </ol>		
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 事前指導においては、これまでに履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を振り返りを行うこと、事後指導においては報告する内容をまとめておくこと。 これらに加え、別途担当教員から課題を課すため、取り組むこと。		
成 績 評 価 方 法	講義への参加態度（30 点）、学習指導案の評価（30 点）、実習報告会（40 点）を総合的に判断して評価する。		
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	教育実習日誌（第 4 版）、学術図書出版社、2019 年		

参 考 書 ( 購 入 任 意 )	必要に応じて、資料を配布する。
----------------------	-----------------

科 目 名	障害児教育実習				
科 目 名 ( 英 語 )	Education for handicapped children teaching practice	シラバスNo.	260050380		
担 当 教 員 名	西垣 昌欣・坂内 仁・真名瀬 陽平				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職 (特支) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	実習を通して特別支援教育についての理解と認識を深め、特別支援学校教諭の職務や役割について理解することができる。児童生徒の障害についての的確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク実習や高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援学校において、配属された学級または担当する指導グループの児童生徒の教科・領域について、学習指導案の作成や教材研究を基に授業を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 実習中は、指導教諭から受ける指導内容や教育実習録への記載を通して、特別支援学校の学級経営等の在り方や学習指導案の作成、教材研究、授業実践と反省等を行い、特別支援教育への理解を深めることができる。				
授 業 の 計 画	実習先の特別支援学校の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に学習する。 1 実習校における事前指導 2 教育講話の聴講 3 学習場面や生活指導場面の観察 4 学習場面や生活指導場面の部分的指導 5 指導計画及び学習指導案の作成 6 教材研究 7 授業の実施 8 研究授業の実施(学習指導案作成、教材研究、授業、反省会) 9 教育実習日誌の記入				
授 業 時 間 外 学 修 ( 予 習 ・ 復 習 ) の 内 容	総学修時間 90 時間 ( 2 単 位 × 45 時間 ) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】				
成 績 評 価 方 法	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を基に、総合的に判断して評価を行う。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	教育実習日誌 (第 4 版)、学術図書出版社、2019 年				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					